

援助職のリカバリー

《25》

～「セックスレス」に立ち向かう(6)～

袴田 洋子

土曜の夕方、京子は手際よく仕事を終えると、足早に駅に向かった。自宅の最寄り駅から1つ先の駅近くの居酒屋で、先輩薬剤師の香と今夜、初めて一緒に飲む約束をしていた。日本人女性のセックスライフ議論について、京子と香は、多いに盛り上がったのだが、さすがに薬局の昼休みに話し続けるには難しく、改めて場を設けようということにした。

店は、土曜の夜ということもあり、ほぼ満員の状態だった。店員に、予約している自分の名前を告げると、「お連れの方がもういらしています」と言われ、席に案内された。

「お疲れ様。先に着いたから、もう始めちゃった。」と、香は片手にビールジョッキを持って、京子を見上げた。香は、今日は有給休暇を取っており、昼間は、渋谷に映画を観に行っていた。職場では、自他共に認める映画好きと

知られ、単館ロードショーの映画なども、一人でよく観に行っていた。香から鑑賞を勧められた映画は本当に面白く、その選択基準を京子はとても気に入っていた。人々の日常生活の中起こる葛藤や苦しみ、希望など、リアルな感情を描いているストーリーで、印象に残るものが多かった。そんな人間らしさをテーマにした映画を多く観ている香だから、女性のセックスライフについて真面目に話しが出来る。京子は直感的に考えていた。

京子も同じ生ビールを注文し、二人で乾杯をした。「あまり強くないから、そんなにたくさんは飲めないけど、たまに一人で飲みに行くこともある」と香は言った。これまで、香とはそれほど、私的な話をしたことがなかったので、京子は、女性のセックスライフについて、どこから話をしたらいいのか戸惑った。そんな京子の気持ちが伝わ

ったのか、香は自ら、話し出した。

私ね、夫と結婚する前、高校の時から付き合っていた彼氏がいたんだけど、大学が別になってしまったことで、ちょっと遊んじゃったの。彼とは、はっきり別れないまま、ちょっと他の男の子とデートしたり、飲みに行ったり。まあ、浮気っていうのかな。多分、向こうもおんなじ。なんとなく他の女の子と遊んでいるじゃないかな、って思ったり。でも、お互いで別れようっていい出さなかったから、続いていたのよね。多分、今、思うと、セックスが気持ちよかったの。で、大学卒業して、お互い就職して。でも、就職って、やっぱりこれまでの生活と、大きく変わるでしょ。職場の先輩が、とても大人で男性として、素敵に見えたりして。同級生で同い年の男子より、ずっとかっこよく見えるのよね。それで、ふらふらと、付き合っちゃって、結婚。9歳年上の先輩が、今のうちの夫。同級生の彼も、同じ頃に他の女性と結婚したのよ。で、うちは結婚して、5年目でやっと子どもが出来たんだけどね。不妊治療？不妊治療なんて考えもしなかったわ。ただのセックスレス気味だったから。夫と付き合い始めた時、それまでの彼とのセックスとはぜんぜん違ってびっくりした。あんまり気持ちよくないのよ。なんか、あまりセ

ックスのことを大したことないって思ってるのかな。でも、私も子どもが欲しいと思ったから、がんばって、排卵日を予測して、なんとか妊娠できたの。で、ふと思ったのよ。今後は、妊娠のためのセックスではなくて、夫婦の性欲のためのセックスをするんだよなって。そうしたら、今のままでは、とても続けていけない、と思ったの。お互いで気持ち良いセックスが出来るように、努力しなくちゃと思ったの。で、滝沢さんとまったく同じ。ネットで検索したら、出てくる出てくる。女性向けのアダルトグッズを扱っているサイトもあって。びっくりしたわ。それで、思い切って、そのサイトで、自分でバイブを買ったの。で、セックスの時に、夫に使ってもらったのよ。夫は、最初はびっくりしていたけど、その後は、私が気持ちよくなれるように、自分から他のもっと高級なアダルトグッズをネットで買ってくれていたりして。それで、私もオーガズムを感じられるようになって、気持ちいいセックスができるようになったの。浮気しないで済んだわ。ほんとよ。滝沢さんが考えていたとおり、日本では、女性がセクシャルなことを口にするのを受け入れられていないと思うわ。こんな話、なかなか出来ないでしょう？でもね、とても大事なことなのよ。女性にも性欲があって、気持ちよいセ

ックスがしたい、って、堂々と言っていいのよ。でも、そのためには、ちゃんと女性が、自分自身の性欲を認めることからよね。でも、あまりにも忙し過ぎたり、仕事で疲れていたりすると、セックスするより寝たい、って思うわよね。世の夫は、仕事で疲れているのに、体力使うセックスなんてしたいと思えないかもよね。でも、だからこそ、前戯をして、女性が潤って、アダルトグッズのローターやバイブを使って、女性をちゃんと気持ちよくさせれば、挿入したあと、短時間で射精しちゃっても女性は満足できるのよ。そうすれば、何歳になっても、体力の衰えを怖がらずに、夫婦でセックスを楽しむことができると思うわ。ただ、女性が気持ちよく感じても、加齢と共に、どうしても潤わなくなってくるんだけど、潤ってないのに挿入されると、性行為はただただ痛いだけだから、そういう時は、潤滑剤のゼリーを使えばいいのよ。美味しいものが食べたいな、っていうのとまったく同じように、気持ちいいセックスがしたいな、とっていいのよ。それは、恥ずかしいことでも何でもないわ。夫婦やカップルにとって、とても大事なことなのよ。日本は、そういうことを誰も教えてくれないものね。性的欲求の解消は、とても大事なことなのよ。

香の話は、京子の人生が180度変わるくらい、衝撃的に感じられた。が、不健全には、全く感じなかった。いや、これこそが、健康な性の考え方なのではないかと思えた。どちらかが我慢するようなものは、続けることはできないのだ。生ビール3杯飲んだとは思えないほど、頭は冴えていた。京子は、香に教えてもらった女性用のアダルトグッズを扱っているサイトにアクセスし、ローターとバイブを一つずつ購入した。